

はじめに

2024(令和6)年1月1日に発生した令和6年能登半島地震によって亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。被災されたすべての方が一日も早く平穏な日常生活に戻られることをお祈りいたします。

さて、2023年は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類へと変更され、ようやく日常生活が戻ってまいりました。本会の職域、地域・学校保健、クリニック、健康教育活動などの事業については、まだ容易ではない状況が一部にみられますが、おかげさまでおおむねコロナ前の実績に近づいています。これもひとえに予防医学事業中央会をはじめ関連団体ならびに東京都医師会、東京産婦人科医会、研究機関などのご支援、そして本会職員の努力の賜物と心より深く感謝申し上げます。

2022年～2023年にかけて東京都医師会は、ウィズコロナ/ポストコロナ時代の医療提供体制の改革と社会保障の理想像を検討する場として「TMA(Tokyo Medical Association)近未来医療会議」を設置し、さまざまな視点から貴重な議論・提言をされました。本会もコロナ禍での教訓に学び、近未来の東京の医療に危機感を共有し、今後の健(検)診のあり方を考えることが必要です。

2023年は本会の新しい取り組みとして、災害時事業継続計画(BCP)の策定、2年目職員のフォローアップ研修を含めた人材育成、デジタル推進局の新規設置とデジタル化の促進、拡大新生児スクリーニング検査の有償事業などを開始しました。拡大新生児スクリーニング検査に関しては、本事業を協議いただく場として「東京都新生児スクリーニングコンソーシアム(委員長 大石公彦東京慈恵会医科大学教授)」が発足しました。本コンソーシアムは専門医・大学病院・研究機関、そして東京都、東京都医師会、東京産婦人科医会、東京小児科医会とともに、東京都における新生児マススクリーニングを健全に普及させ、公衆衛生プログラムの一環として寄与することをめざしております。以上の取り組みは本会の未来に向けて、いずれも骨格ともいえる重要なものばかりです。

このほか、「健康経営優良法人ホワイト500」の認定は2023年で3年連続となり、別館の耐震補強工事と内部の改修工事が2023年秋に完了しました。

また、2024年は4月から「健康日本21(第3次)」や「東京都がん対策推進計画(第3次改定)」がスタートします。こういった国の施策と連動して必要な対応が求められます。

以上述べた取り組みを推進するために、「人とのつながり」を大切に、役職員一同が協力して精度管理に一層注力しながら健(検)診・検査をはじめとする各種事業の安定化を図ってまいります。

2024年3月

公益財団法人東京都予防医学協会
理事長 久布白兼行